

保存版

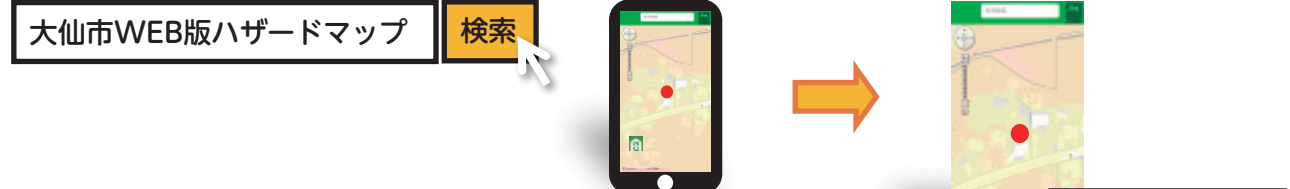
防災

ハザードマップ

大仙市
令和4年3月

WEB版ハザードマップを活用しよう!

スマホやパソコンからいつでもどこでも【より詳細な】ハザードマップが確認できます!



・スマホのGPSを利用して【自分の居場所を中心に】表示可能!



・PCからの閲覧では印刷機能を使い、自宅・学校・勤務先などを中心とした【自分だけのハザードマップ】が印刷出来ます!

大仙市役所【災害時対策本部】0187-63-1111

神岡支所 0187-72-2111	南外支所 0187-74-2111
西台北支所 0187-75-1111	仙北支所 0187-63-3003
仙中支所 0187-56-2111	太田支所 0187-88-1111
協和支所 018-892-2111	

警戒レベルについて

行政機関から提供される警戒レベルについて確認しましょう。

□発令される避難情報等、国や都道府県から提供される防災気象情報には、以下のものがあります。*

警戒レベル	状況	住民に求める行動	避難情報等	防災気象情報
5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保 ^{※2} 市が発令	大雨特別警報 氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難!>				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示 市が発令	土砂災害 警戒情報 氾濫危険情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難 ^{※3}	高齢者等避難 市が発令	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意 気象庁が発令	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 気象庁が発令	

*1 必ずしもこの順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。
*2 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベルは必ず発令されるものではありません。
*3 警戒レベル3は、高齢者等以外の方も、必要に応じて普段の行動を見合わせたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

とにかく自分の身をを守ろう!
地震だ! まず身の安全
大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたり、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

2~5分
大揺れがおさまった
台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の際は、電気のブレーカーを下ろし、ガスや火の元を止めましょう。

5~10分
火の始末のあと
家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

10分~半日
隣近所の安全確認、助け合い!
外に出たあと
家の裏面の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力で行いましょう。

半日~3日
避難後、数日間
地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようしておきましょう。

シェイクアウトを行いましょう!

- 1 まず低く DROP!
- 2 頭を守り COVER!
- 3 動かない HOLD ON!

屋内にいた場合

- 家中**
 - 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
 - 揺れがおさまったらからの確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
 - 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
 - 押定て歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。
- デパート・スーパー**
 - カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- 集合住宅**
 - ドアや窓を開けて避難口を確認する。
 - 避難にエレベーターは絶対に使わない。火と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。
- 劇場・ホール**
 - カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてず冷静な行動をとる。

屋外にいた場合

- 路上**
 - その場に立ち止まず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなど保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
 - 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物や倒れた安全性の高い場所へ移動する。
 - プロダクトや自動販売機などは近づかない。
 - 倒れそうな電柱や倒れた電線に注意する。
- 車を運転中**
 - ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の進行ペースを確保し、道路の左側に止まり、エンジンを切る。
 - 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
 - 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。乗換証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。
- 海岸付近**
 - 高台へ避難し津波情報よく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。
- 電車などの車内**
 - つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
 - 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
 - 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

避難行動判定フロー

【平時に確認!】「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動の確認をしましょう

あなたがとるべき避難行動は?

必ず取り組みましょう

※ハザードマップは浸水や土砂災害などの災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。色が塗られていないところでも災害は起こる可能性があります。

在宅避難
色が塗られていなくても、周りや比べて低い土地や道のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください

在宅避難
自宅が頑丈で、想定される浸水深が3m未満の場所では、2階以上に避難し、安全確保をすることも可能です

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

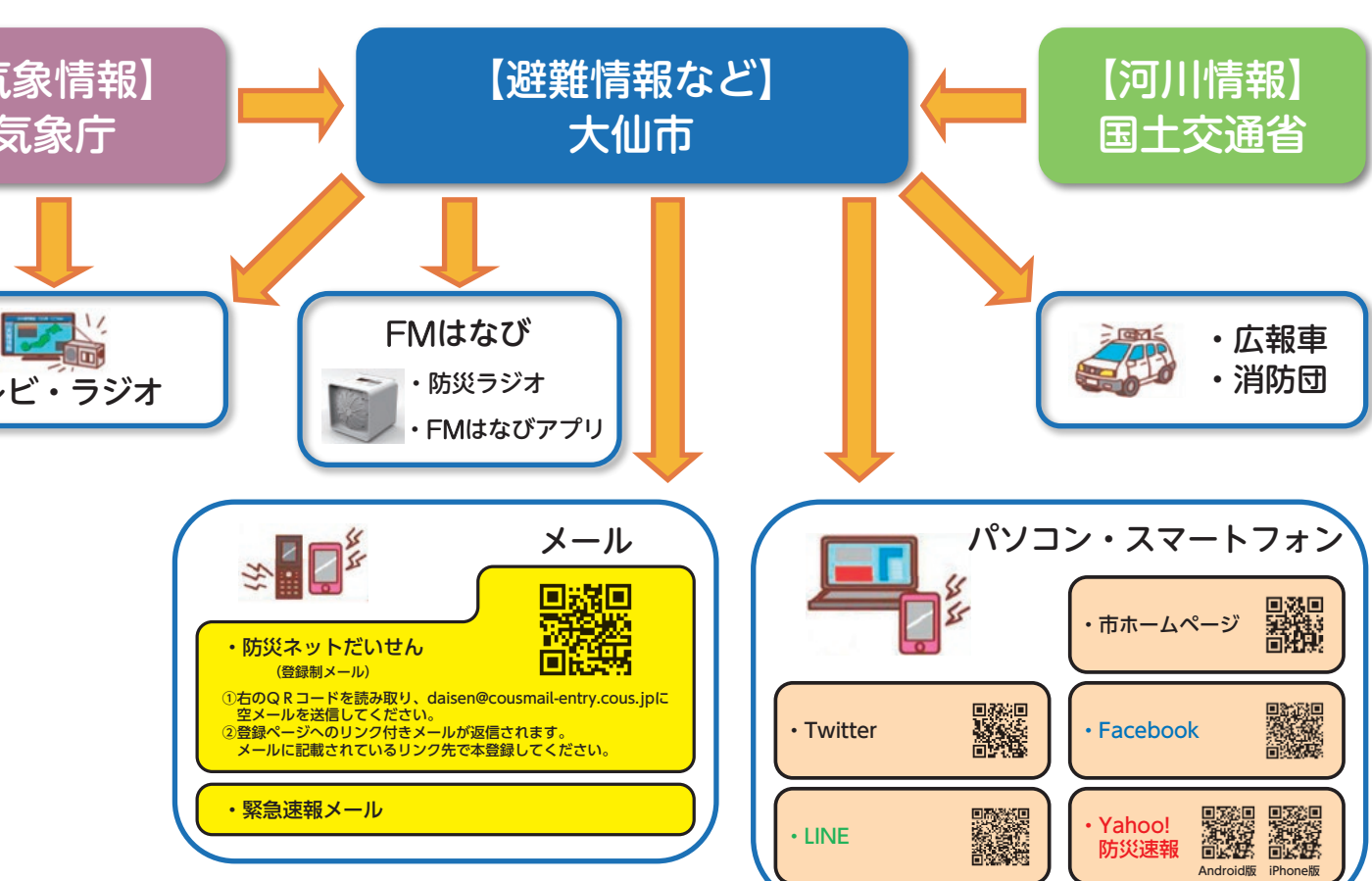
いいえ
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?
はい
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?
いいえ
高年齢等避難(警戒レベル3)が出たら、大仙市が指定する避難所に避難しましょう
いいえ
避難指示(警戒レベル4)が出たら、大仙市が指定する避難所に避難しましょう

このほか、避難所など安全な場所に車で移動し、車中泊での避難(車中避難)も検討しましょう
※エコノミークラス症候群には十分注意してください

家族・自治会の集合場所

家族との集合場所		自治会の集合場所	
浸水災害時	土砂災害時	浸水災害時	土砂災害時
地震災害時		地震災害時	

災害時の情報伝達について



洪水・浸水害について

氾濫の種類

外水氾濫
大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し、堤防を越える、あるいは堤防が決壊して10mの水が外に溢れ、浸水の原因となる。外水氾濫は、堤防のすぐそばに浸水する。

内水氾濫
その場所から降った雨水や、周りから流れ込んできた水が、排水設備の排水能力を超えて溢れ、浸水の原因となる。

河川の危険水位と洪水予測
河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予測が発表されます。自治体はこの情報を自主的に、避難に関する情報を発令します。

避難行動のポイント、危険な場所

- 浸水が始まる前に早めの避難を**
浸水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。
- 状況に応じた避難を**
周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物の2階以上の階に避難する。移動途中でも、危険を感じたら、高い階に避難する。停電の際も、避難の途でも増水した川の近くを通るのは避ける。
- 川や用水路に近づかない**
降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。川の様子を確認は、自分や家族の安全を優先して、携帯電話を活用する。また、避難の途中で増水した川の近くを通るのは避ける。
- 川や用水路に近づかない**
- 地下室、地下街は危険**
地下にいた場合、地上の様子を把握し、地下には浸水がすすむ。また、地上が浸水すると、一気にくみり込みになる。浸水の可能性も高く、脱出が困難となる。
- アンダーパスは危険**
道路や橋の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水が溜まり、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。

土砂災害について

土砂災害の種類

- かけ崩れ**
地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に崩壊が進行することをいいます。その崩れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを破壊させてしまいます。
- 土石流**
山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを破壊させてしまいます。
- 地すべり**
斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響を重力によってゆっくりと斜面下方向に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大いため、甚大な被害を及ぼします。また一旦発生すると、これを完全に停止させることは非常に困難です。

土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

- 土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)**
建築物に破損が生じ、住民に著しい被害が生じるおそれがある区域
- 土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)**
土砂災害のおそれがある区域

備蓄品および非常持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常持ち出し品」。災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。以下は一例です。とくに非常持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。(男性15kg 女性10kgが目安)

非常持ち出し品

- 貴重品**
現金 ※公共交通機関に硬貨も
印鑑
家や車の予備鍵
貴重品のコピー (健康保険証、免許証、通帳、保険証書、権利書など)
- 情報収集用品**
携帯ラジオ ※予備電池も
携帯電話(スマートフォンの充電器)※モバイルバッテリー ※ライト付きが便利
筆記用具
- 非常食**
※非常食 ※軽く高カロリーのもの
飲料水
給水袋
万能ナイフ
- 衛生用品**
救急セット ※常備薬も
マスク
消毒液
体温計
トイレ用ペーパー
フェルトティッシュ
ビニール袋
下着類
- 安全用品**
懐中電灯 ※予備電池も
ヘルメット・防災ずきん
重手
スリッパ
笛やブザー ※避難所を知らせるもの
マッチ・ライター
毛布・保温シート
使い捨てカイロ
- 備蓄品**
飲料水 ※1人1日3ℓ
食料 ※アルファ米、長期保存食品など専用食品、下記ローリングストックの活用も
給水用ポリタンク・バケツ
カセットコンロ・ガスボンベ
使い捨ての食器類
食器用ラップ
- ランタン
災害用トイレセット
からだ拭きシート
水のいらないシャンプー
ガステーブ
ビニールシート
- 非常持出袋
- 非常用品

上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

定期的に点検を! いざというときに支障がないように食品類の賞味期限や、持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、普段から少しずつに食品や日用品を買って置き、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことを「ローリングストック」と言います。日常生活の中で、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

一方、対象品の中には、ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、インスタント食品、お菓子、乾菓子、缶詰、漬物、カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、トイレットペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、乾電池、使い捨てカイロ

NTT災害用伝言ダイヤル171

災害発生時、電話が繋がりにくい状況になった場合に提供が開始される伝言板です。

伝言の録音 171-1-被災地の方の電話番号 録音

伝言の再生 171-2-被災地の方の電話番号 再生

使い方

大雨になってからや、浸水してから避難は大変危険です。早めに避難することを心がけましょう。万一、浸水してしまった場合には、浸水の速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを破壊させてしまいます。

※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふんだと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、軽微として土砂災害発生前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の遅滞はほとんどないと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

- 1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「谷のつら」からは、いち早く避難する。
- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、周辺の堅牢な建物の高層階へ避難する。
- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)